

エコアクション21

2016年度環境活動レポート

作成:2017年4月21日



活動期間:2016年4月~2017年3月

 **セイコー工業株式会社**

【 目 次 】

「会社概要」	1
「環境方針」	2
「実施体制と役割分担表」	3
「環境活動計画」	4
「環境目標とその実績」	5
「主な環境活動計画内容と取組み結果の評価」	6
「代表者による全体評価の見直し」	8
「環境関連法規への違反、訴訟等の有無」	8

【 会社概要 】

- (1)名称 セーチョー工業株式会社
- (2)代表者 代表取締役 生倉 茂
- (3)所在地 神奈川県相模原市緑区橋本 6-5-10 中屋第2ビル 2F
- (4)環境保全関係の担当者連絡先
担当者 管理責任者 高橋圭輔
連絡先 TEL:042(774)8911
FAX:042(779)6667
E-mail: k_takahashi@seicho.co.jp
- (5)事業所概要
- | | |
|----------|------------------|
| 会社設立 | 昭和18年5月 |
| 資本金 | 5,300万円 |
| 売上高 | 34,444万円(2016年度) |
| 従業員数 | 7名 |
| 事業所延べ床面積 | 57㎡ |
- (6)営業品目 工業用プラスチック製品(計測器・カメラ・電気機器・事務機等)及び資材等(鉄道・道路・電力用設備等)の開発・製造委託・販売
- (7)認証範囲 上記業務及び本社に所属する全ての業務を含む。
[URL:http://www.seicho.co.jp](http://www.seicho.co.jp)

【 環境方針 】

■基本理念

当社は、地球環境の保全が人類共通の重要課題であるとの認識のもと、基本方針を定め、循環型社会へ貢献できる企業活動を行います。

■基本方針

当社は、リサイクル樹脂を使用した汎用プラスチック製品の設計・開発、製造に係わる全ての業務において、以下の基本方針に基づき、持続的な環境改善を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスにおいて、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 電力使用量及び化石燃料の削減
 - (2) 事務用紙使用量の削減
 - (3) リサイクル材を使用した製品による、グリーン購入、製品及びサービスの拡大
 - (4) 製品含有化学物質の管理
 - (5) 廃棄物の排出量を削減、分別・再資源化の徹底
 - (6) 水道水使用量(排水量)の削減
4. この方針を、社員に充分理解させると共に、「環境活動レポート」により社外へも広く公開します。

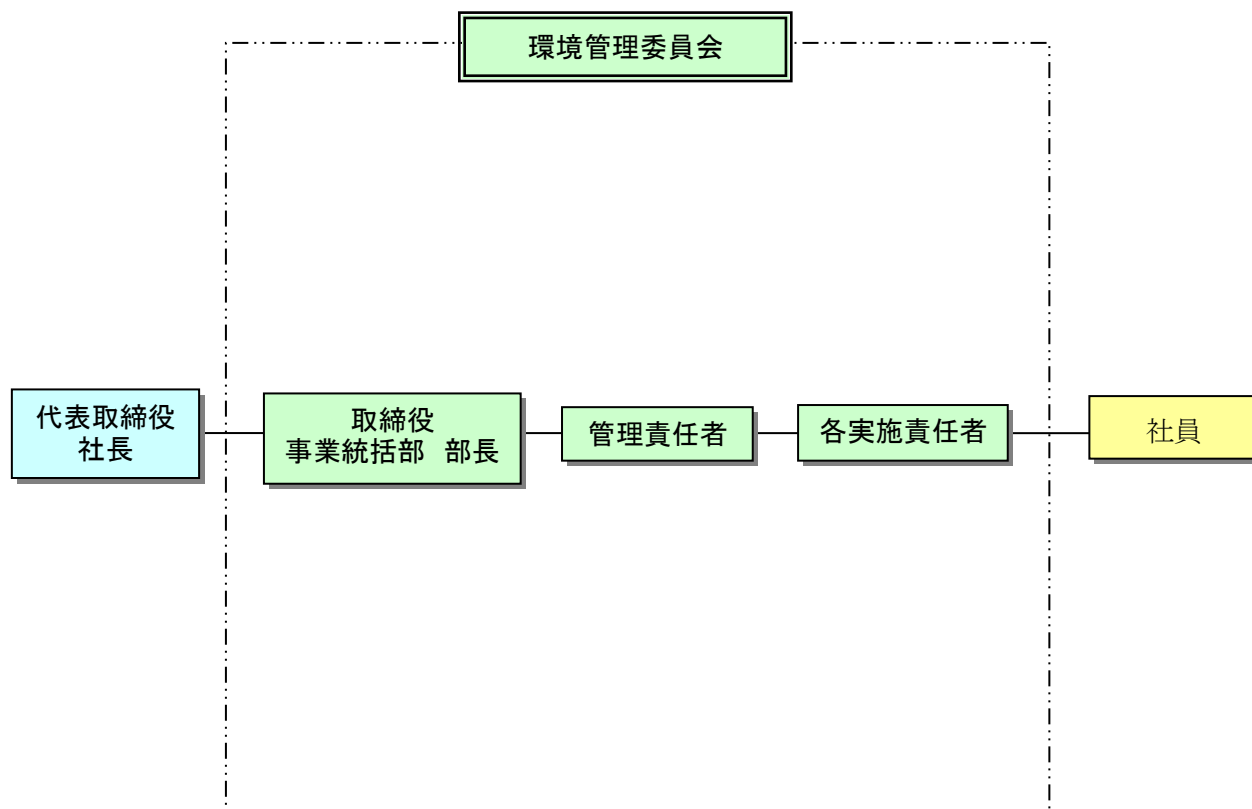
2016年4月27日

セーヨー工業株式会社

代表取締役

生倉 茂

【 実施体制と役割分担表 】



責任者	役割
トップマネジメント (社長、及び 事業統括部長)	<ul style="list-style-type: none"> 「環境方針」を策定する。 「環境経営システム」の実行に必要な資源(人・物・金)を用意する。 「環境管理責任者」を任命する。 「環境経営システム」の全体的な取り組み状況を評価、見直し、必要な指示を行う。 「環境管理委員会」を開催する。 「マネジメントレビュー」を毎年期首に開催する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 「環境経営システム」を構築し、維持する。 「環境経営システム」の構築・運用状況を「トップマネジメント」に報告する。 「マネジメントレビュー議事録」を作成する。 「環境活動レポート」を取りまとめる。
環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> 「環境活動計画」の取り組み内容をまとめる。 原則として毎月1回開催し、取組み実施状況の確認と必要な措置を検討する。
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> 「環境活動計画」の取り組み内容をまとめる際、環境管理委員会会議に参加する。 「環境活動計画」の具体的な実践を行う。

※ 活動は全組織、全部門を対象とする。

【 環境活動計画 】

環境方針 (重要課題)	責任者、 担当部門	・2016 年度の目標と手段	・2017 年度の目標と手段
1 二酸化炭素排出量の削減 ・電力使用量の削減 ・化石燃料の削減	全部門	電力使用量・化石燃料削減 ・不使用照明の電源 OFF ・空調適温化の徹底 (冷房 28±1℃、暖房 20±1℃) とクールビズ、ウォームビズの実施 ・不使用機器の電源 OFF ・エコドライブの実践 ・燃費の管理	電力使用量・化石燃料削減 ・継続管理 ・空調適温化の徹底 (冷房 28±1℃、暖房 20±1℃) とクールビズ、ウォームビズの実施 ・継続管理 ・継続管理 ・ "
2 省資源活動の推進 ・事務用紙使用量の削減	総務部門	事務用紙使用量の削減 ・使用済み用紙の裏面使用 ・コピー使用量管理の徹底 ・電子化の推進	事務用紙使用量の 1%削減 (対 2016 年度使用量) ・継続管理 ・ " ・ "
3 製品及びサービス・リサイクル材使用量の拡大 ・リサイクル材活用 ・売上高拡大	営業部門	・リサイクル材使用量 5%拡大 (対 2015 年度生産量) ・リサイクル材使用量拡大に向けた営業活動(販路拡大) ・エコマーク認定品の拡大	リサイクル材使用量 5%拡大 (対 2016 年度生産量) ・継続管理 ・ "
4 グリーン購入の推進 ・今までの活動で事務用品の G マークはほぼ 100%達成した為、活動のみとする。	全部門	事務用品のグリーン購入 ・G マーク品の継続購入	事務用品のグリーン購入 ・G マーク品の継続購入
5 廃棄物排出量の低減 ・資源の節約・廃棄物の削減	全部門	廃棄物排出量 1%削減 (対 2015 年度排出量) ・分別の徹底 ・3R の実践	廃棄物排出量 1%削減 (対 2016 年度排出量) ・継続管理
6 総排水量の削減 ・水道水使用量の削減(節水) 水道水は共同使用につき、実績の把握が不可能な為、活動のみとする。	全部門	水使用量は監視項目 (2015 年度使用量相当) ・節水の推進 ・水道使用量の確認	水使用量は監視項目 (2016 年度使用量相当) ・継続管理 ・ "

【 環境目標とその実績 】

当社の環境目標とその実績は次の通りです。

年 度 実績・目標 項 目			2015 年度	2016 年度		2017 年度 (計画)	2018 年度 (計画)
			2015.4 ~ 2016.3	2015.4 ~ 2016.3		2016.4 ~ 2017.3	2017.4 ~ 2018.3
			実績	目標	実績	目標	目標
電 力	使用量	kwh	5728	5,613	5,322	2016 年度 値×0.98	2017 年度 値×0.98
	削減率	%	—	2	7	2	2
	達成率	%	—	—	105	—	—
	CO ₂ 排出量*	kg-CO ₂	3,036	—	2,661	—	—
化 石 燃 料	使用量	ℓ	3,028	2,697	3,961	2016 年度 値×0.98	2017 年度 値×0.98
	削減率	%	—	2	▲31	2	2
	達成率	%	—	—	76	—	—
	CO ₂ 排出量*	kg-CO ₂	7,030	—	9,196	—	—
コ ピ ー	使用量	枚	35,218	34,865	36,785	2016 年度 値×0.99	2017 年度 値×0.99
	削減率	%	—	1	▲4	1	2
	達成率	%	—	—	95	—	—
商 品 の 販 売	使用量	t	356	374	398	373	392
	増加率	%	—	5	11	5	5
購 入	グリーン	—	—	—	—	—	—
	達成率	%	100	継続	100	100	100
廃 棄 物	処分量 (焼却+最終)	kg	102	101	102	2016 年度 値×0.99	2017 年度 値×0.99
	削減率	%	—	1	0	1	—
	達成率	%	—	—	99	—	—

※電力の排出量係数として、0.500kg-CO₂/kwh(東京電力平成27年度)を使用。

※化石燃料の排出係数として、0.061kg-CO₂/MJ(温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル)を使用。

※水道水は、事務所の入るビル全体で一括管理されている為、監視項目とする

※化学物質は使用していません。

【 主な環境活動計画内容と取組み結果の評価 】

環境方針 (重要課題)	主な環境活動の取組み	取組み結果の評価と 次年度の取組み内容
1 二酸化炭素排出量の削減 ・電力使用量の削減 ・化石燃料の削減	①不使用照明の電源 OFF ②空調適温化の徹底 (設定温度:冷房 28±1℃、暖房 20±1℃) ③クールビズ・ウォームビズの実施 ④不使用機器の電源 OFF ⑤省エネ機器の導入 ⑥エコドライブの実践 ⑦燃費の管理	電力使用量は目標達成したが、化石燃料は不達成。化石燃料については、新たに始まった大型案件で、社用車による配送が増加した事による。本年度は社用車による配送を減らし、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
2 省資源活動の推進 ・事務用紙使用量(コピー使用量)の削減	①使用済み用紙の裏面使用 ②コピー使用量管理の徹底 ③電子化の推進	大規模案件開始の影響で、コピー使用量が微増。 引き続き使用済み用紙の裏面使用、コピー使用量の管理、会議でのコピー枚数削減等に取り組む、使用量の削減に努めます。
3 エコマーク商品の販売 ・リサイクル材活用 ・売上高拡大	リサイクル材使用量拡大に向けた営業活動(販路拡大)	リサイクル材を使用したエコマーク商品“R プレート”を、鉄道向けから道路向けまで販路拡大に取り組んだ結果、東北新幹線メンテナンス工事、上越新幹線メンテナンス工事、大阪環状線工事等にご使用頂き、大幅な売り上げ増となりました。次年度も効率的かつ効果的な営業活動を続け、販路拡大に努めます。
4 グリーン購入の推進 ・G マーク品の購入	G マーク製品の優先購入	G マーク製品を優先的に購入しました。 次年度も G マーク製品の優先購入を継続致します。
5 廃棄物排出量の低減 ・資源の節約 ・廃棄物の削減	①分別の徹底 ②3Rの実践	大規模案件開始の影響で、廃棄物排出量が微増。 引き続き、使用済み用紙の裏面使用、コピー使用量の管理、会議でのコピー枚数削減等に取り組む、廃棄物の削減に努めます。



当社のリサイクル樹脂を使用した環境に優しいエコマーク認定商品、
鉄道用ダクト蓋 “R プレート”です。この製品の販売を通して、グリー
ン購入、製品及びサービスの拡大に取り組んでいます。

【 代表者による全体評価の見直し 】

[代表者による取り組みの総合評価]

リサイクル材を使用したエコマーク認定商品「R プレート」の販売が増加した為、前年度を超える売り上げを達成したが、化石燃料の使用量や、コピーの使用量も増加した為、環境目標を達成する事ができませんでした。

化石燃料については、大型の荷物を遠方へ配送する案件が増えた事が大きな原因である。

コピー使用量及び、廃棄物の量につきましても、新たな案件による、客先や工事会社等に配付する資料やカタログが増えた事が要因と思われます。

本年度は2016年度の結果を基準とし、全ての項目で目標達成できるよう、会社全体で取り組んで頂きたい。

【 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 】

[環境関連法規等の遵守状況]

当社に適用される環境法規の遵守状況を自主的に確認した結果、問題はありませんでした。

法令・条例	遵守事項	当社対応	遵守評価
廃棄物処理法	・一般廃棄物 ・産業廃棄物 ・産業廃棄物排出委託基準 ・マニフェスト年間集計と報告	・廃棄物の分別 ・マニフェスト管理 ・指定業者との契約確認 ・6月末までに相模原市へ	遵守
家電リサイクル法	・買換時はリサイクル料負担	・特定家庭用機器	該当なし
RoHS 規制	・RoHS 規制への対応	・客先への調査回答	遵守

[違反、訴訟等の有無]

過去3年間において関係当局からの違反等の指摘はなく、また訴訟等もありませんでした。